

Title	『ドデカニース』
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1921
Jtitle	史学 Vol.1, No.1 (1921. 10) ,p.140- 140
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19211000-0140">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19211000-0140</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 『ドデカニース』

近世史上に於て、伊土戦争以來、屢々散見する言葉に The Dodecanese がある。この語が希臘語で十二の島嶼を示す Dodecanesia より起つたものであることは、誰しも氣付く處であらうが伊土戦争の年に出版された『大英百科辭典』の第十一版には、勿論記載されてゐない。然らば、この語が何時頃から行はれ、何れの島々をさすのであるかと云ふに J. L. Myres 教授が “The Geographical Journal” Vol. LVI に載せた講演によらるゝ之が Dodecanesia の名稱の下に、初めて示されたのは、西曆七三〇年頃、ビザンチウム帝國の行政區劃としてありつて、十二島は Samos 島の南、Crete 島の北に介在して、東は Rhodes(之をも含めて)に至る迄の一切の大きな島々を總稱するのである。北方より順に其の名稱を擧げると、即ち Páros, Leros, Kalymnos, Kos. 更に南に Astypalaia, Nisyros, Tilos(一名 Episkopi) Khalki, Rhodes, 小亞細亞の濱邊に近き Syri 並に Rhodes, Crete 兩島間の廣き海面に浮べる Karpathos 及び Kasos の諸島をさすのである。そして、この地域には、其他、夥多の小島嶼が散布して居り、その一部には住民を有するものすら存するのであるが、併しその一切は十二島中の何れかの屬島と看做されてゐる。因に又往々にして北方の Nikaria 又は Castellorizo を、上記の十二島と差し換へて、十二島中に加へんとする提案を見るものがあるが、これは悉らく政治上の動機に基因したものであらう。(Myres)